

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ東京 基本情報

1. 学校概要

◇設置者

学校法人菅原学園

◇所在地

東京都豊島区西池袋2-38-8

◇連絡先

T E L 03-5992-5800 (代表)

M a i l jimu@dat.ac.jp (事務局)

◇理事長・校長

学校法人菅原学園理事長

専門学校デジタルアーツ東京校長

菅原 一博

(公社) 全国経理教育協会 顧問

(公財) 全国法人会総連合 副会長

(一財) 職業教育・キャリア教育財団 理事

(一社) 宮城県専修学校各種学校 連合会 会長

(学) 萩至誠館 至誠館大学 理事長

(社福) まほろば 理事長

◇菅原学園グループ

専門学校デジタルアーツ東京

専門学校デジタルアーツ仙台

仙台保健福祉専門学校

仙台総合ビジネス公務員専門学校

仙台総合ペット専門学校

こどもの国幼稚園

鶴が丘幼稚園

鶴ヶ谷幼稚園

鶴ヶ谷マードレ保育園

◇学園の沿革

- 1949年 仙台簿記学校 (現: 仙台総合ビジネス公務員専門学校) 設立許可
- 1956年 財団法人菅原学園 仙台経理専門学校に改称
- 1960年 学校法人菅原学園 認可
- 1975年 仙台電子専門学校 (現: 専門学校デジタルアーツ仙台) 開校
- 1979年 鶴が丘幼稚園 開園
- 1983年 総合学園「キャリア・カレッジ構想」スタート
- 1984年 仙台ビジネス専門学校 (現: 仙台総合ペット専門学校) 開校
- 1991年 日本情報ビジネス専門学校 新宿区高田馬場に開校

こどもの国幼稚園 開園

- 1993年 日本情報ビジネス専門学校新校舎 豊島区西池袋に完成・移転
- 1995年 仙台福祉専門学校（現：仙台保健福祉専門学校） 開校
- 2000年 日本情報ビジネス専門学校を専門学校デジタルアーツ東京に校名変更
- 2004年 鶴ヶ谷マードレ保育園 開園
- 2009年 創立60周年
- 2013年 理事長菅原一博が社会福祉法人まほろばの理事長に就任
- 2014年 理事長菅原一博が至誠館大学の理事長に就任

◇学校の教育目標

本校は、学校教育法に基づく教育機関として、多様化、高度化し変遷する産業及び社会構造の変化に対応するデザインや音楽、演劇・情報技術（IT）・ビジネスの各分野に関する理論とその実践応用の教授を行う。かかる教育目的の実現により、国家、地域社会ならびに産業の発展に寄与する実務に即応できる人材と自由かつ創造性に富む人間の育成を使命とする。

◇重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本校の各分野は、制作会社におけるシステム再構築やデジタル技術の進歩、プロダクション等におけるニーズの变革が顕著になっている。この動向に対応すべくこれまでに築き上げた企業や業界との関係を使い、情報交換を行い次代を担うクリエイターやアーティストを育成することの出来るカリキュラム及び教育システムを更に向上させていく。また、これまで取り組んでいる人間力を向上させるためにより具体的な施策を策定していく。

2. 教育制度と学科別教育内容

◇教科目の評定（全学科共通）

- ・教科目の認定基準は、成績評価および出席率をもって認定します。
- ・各教科目の成績評価はA・B・C・Dの4段階とし、C以上を合格として認定します。
- ・出席率が75%以上に満たない場合は、原則としてその教科目を不認定とします。

◇進級・卒業の認定（全学科共通）

- ・進級の認定は、各課程のカリキュラム表に定められた当該年度の教科目を履修し、所定の教科を取得し、かつ、進級判定会議に諮り、校長が学科、学年の修了を認定します。
- ・卒業の認定は、各課程のカリキュラム表に定められた教科目を履修し、所定の教科を取得し、かつ、卒業判定会議に諮り、校長がその学科の卒業を認定します。

◇授業時間（全学科共通）

授業日は月曜日から金曜日の週5日制を実施、1日の講義の時間帯は次のとおりです。

- 第1時限 9：10～10：40
- 第2時限 10：50～12：20
- 第3時限 13：00～14：30
- 第4時限 14：40～16：10
- 第5時限 16：20～17：50

◇学期の始期・終期（全学科共通）

〔前期〕 4月1日～9月30日 〔後期〕 10月1日～翌3月31日

◇学科別情報

■アニメ学科（文化教養専門課程）

□修業年限 2年

□コース名 ・アニメーターコース ・アニメ彩色コース

□めざす職業・業種

アニメーター／作画監督／キャラクターデザイナー／演出／デジタルペインター／コンポジット／
特殊効果／制作進行／CGアニメクリエイター

□主な教材

アニメーション用紙／アニメ用タッパ／色鉛筆／ポスターカラー／ビジュアル筆セット／
ソフトウェア（RETAS STUDIO、Photoshop、Illustrator、After Effects 等）

■アニメ声優学科（文化教養専門課程）

□修業年限 2年

□コース名 ・アニメ声優コース ・アニソン声優コース

□めざす職業・業種

声優／俳優／アナウンサー／ナレーター／ラジオパーソナリティー／司会者／CMナレーション／
タレント／アニソンアーティスト／ヴォーカリスト

□主な教材

特にありません。現役プロ講師の指導が一番の“教材”です。他学科同様にいくつかの教科書は使用
します。他に、“感性を磨く”“現場を見る”意味合いから、歌舞伎や舞台鑑賞等が入ります。

■イラスト・マンガ学科（文化教養専門課程）

□修業年限 2年

□コース名 ・イラストコース ・キャラクターデザインコース ・マンガコース

□めざす職業・業種

イラストレーター／アートディレクター／カットデザイナー／キャラクターデザイナー／
商品デザイナー／グラフィックデザイナー／2Dデザイナー／マンガ家／マンガ原作者

□主な教材

コピックセット／ビジュアル筆セット／色鉛筆／ポスターカラー／デザイン用ピンセット／
漫画原稿用紙／ペン先／ペン軸／スクリーントーン／水彩絵具／ビジュアル筆セット／
ソフトウェア（Illustrator、Photoshop、CLIP STUDIO 等）

■ゲーム学科（情報専門課程）

□修業年限 2年

□コース名 ・ゲームキャラクターコース ・ゲームプログラムコース ・ITコース

□めざす職業・業種

キャラクターデザイナー／ゲームグラフィッカー／2Dデザイナー／3DCGデザイナー／
ゲームプログラマー／Webプログラマー／システムエンジニア／IT系プログラマー

□主な教材

ビジュアル筆セット／色鉛筆／ポスターカラー／
ソフトウェア（Illustrator、Photoshop、3ds Max、Maya、Premiere、After Effects
Unity、VisualStudio.Net、Java SDK 等）

■ノベルス・シナリオ学科（文化教養専門課程）

□修業年限 2年

□めざす職業・業種

ライトノベル作家／ノベライザー／小説家／シナリオライター／舞台脚本家／マンガ原作者

□主な教材

ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint 等）

■フィギュア原型学科（文化教養専門課程）

□修業年限 2年

□めざす職業・業種

フィギュア原型師／玩具営業販売／フィギュア商品企画／内装美術業界／フィニッシャー／
舞台美術業界／玩具原型師

□主な教材

グレイスカルピー／エポキシパテ／ポリエステルパテ／ファンド／プラスチック板／造形ツール

■国際情報ビジネス学科（ビジネス専門課程）

□修業年限 2年

□学科内容・特徴

日々進化する国際化・情報化社会に対応できる人材を育成する学科です。ビジネス社会で通用する力と技能を身につけることを主な目的としています。英語・英会話、P C能力を身につけ、貿易実務を通して貿易に関する全般の知識まで学びます。

□主な教材

ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint 等）

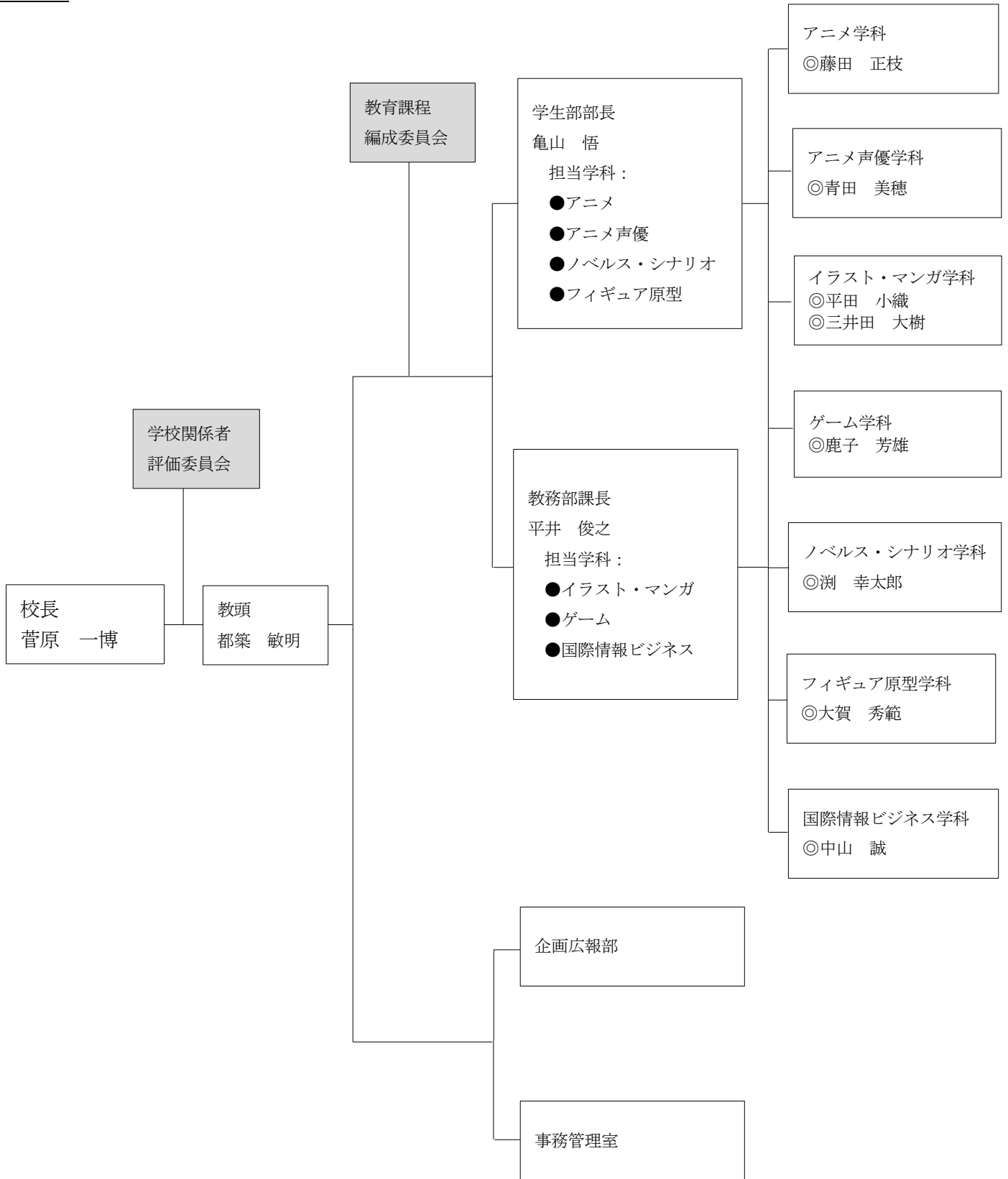
3. 教職員

平成30年度 専門学校デジタルアーツ東京 教員数&組織図

◇教職員数

教員 81名 職員 2名

◇組織図



◎学科長

4. 就職支援と職業実践教育・キャリア教育

◇デビュー・就職指導体制

キャリアサポートセンターをはじめ、各学科長・担任が連携を図り、求人企業、インターンシップの開拓や就職活動支援を行っています。設置学科に該当する業界ごとにデビュー、就職の活動方法が違います。各業界に合わせた指導体制を整えています。履歴書の書き方、ポートフォリオの作成方法、オーディション対策、模擬面接等、デビュー・就職活動に必須な技術・知識を身につける指導を行っています。

また、定期的にデビュー・就職実績企業の訪問、講師やOB・OGとも連携を図り、多方面から“現場”の情報を得ています。

◇職業実践教育

デビュー・就職先での仕事に直結する技術・知識を習得できるように、教育課程編成委員会からの提言を中心に各業界の企業や講師の意見を学内で協議し、カリキュラムの設定、教材の選定、専門技術の指導方法等を毎年検討し、見直しをしています。合わせて、授業の一環として、一つの作品を他学科と連携し制作する「コラボレーション」を実施、学内に各業界の制作現場と同様の環境を整えています。

また、各企業、プロデビューしている方を招いた特別講義、業界セミナー等を実施しています。

◇キャリア教育

日頃の授業から、各業界で“生きていける力”を身につけるために技術・知識の習得だけではなく、社会における一般常識、マナー等を指導しています。

また、豊島区を中心とした地域社会と連携する活動を行い、社会性向上を図っています。

5. 様々な教育活動・教育環境

◇キャンパスライフ

本校では、複数の学科を揃え、それぞれの分野で日々、技術・知識の向上に努めています。学生達が学校の内外で交流し、互いに刺激し合い切磋琢磨しています。

◇施設・設備

学ぶカリキュラムごとにプロユースな最先端のデジタル機器を完備しています。それらの設備を少人数制で指導します。

◇イベント情報

本校では、各業界との連携により、さまざまなイベントを企画・実施をしています。

◇菅原学園同窓会

本学園は、昭和24年創立以来、長い歴史と伝統を持つ総合学園として全国的にも有数の専門学校に成長しました。また、卒業生もこれまでに90,000名を超え、これら同窓会は全国各地の職場で、在作中に取得した専門知識や技術を活かして社会に貢献しています。

多方面で活躍する卒業生同士の情報交換を母校との連携の下に行い、相互の友情を温めつつ同窓共栄の実をあげることを目的として同窓会が組織されています。

6. 学生の生活支援

◇学習・生活指導、学生相談

担任が学習、進路、学生生活等の指導を責任を持って行うほか、就職指導はキャリアサポートセンターが担当します。留学生への支援は専門の国際交流課が担当します。

◇メンタルヘルスケア

学生からのさまざまな相談については、基本まず担任が担当します。また、スクールカウンセラーが定期的に勤務しており、メンタル面を始めとした“心のサポート”を行っています。場合によっては、校医との連携を図り、医療機関への紹介等も行います。

7. 学費と経済的支援

◇納付金

初年度（1年次） 116万円 2年次 106万円 総額 222万円

◇学費支援制度

特待生制度、奨学生制度、クリエイティブ優遇制度、各種優遇制度、卒園児支援制度
他、日本学生支援機構奨学金制度、国の教育ローン、学園提携教育ローン
※学費分割納入制度があります。

●奨学金制度の予算と実績 【2017年度（平成29年度）】

【予算】

給付額	年間240,000円 ※奨学金の返還義務はありません（中途退学者を除く）
支給期間	2年間
対象人数	菅原学園全体で30名程度

【実績】

年間支給額合計 37名 8,760,000円

1年生	21名	4,800,000円
2年生	16名	3,960,000円

8. 財務状況

事業活動収支計算書 自2017年4月1日 至2018年3月31日

学校法人菅原学園

単位:百万円

事業活動収入の部 教育活動収入	科目	予 算	決 算	差 異
	学生生徒等納付金	1,921	1,920	1
	経常費等補助金	102	101	1
	付随事業収入	169	169	0
	その他収入	177	179	△ 2
	教育活動収入 合 計	(2,369)	(2,369)	(0)
事業活動支出の部 教育活動支出	科目	予 算	決 算	差 異
	人件費	1,296	1,296	0
	教育研究経費	691	691	0
	管理経費	466	465	1
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出 合 計	(2,453)	(2,452)	(1)
	教育活動収支差額	(△ 84)	(△ 83)	(△ 1)

事業活動収入の部 教育活動外収入	科目	予 算	決 算	差 異
	受取利息・配当金	22	21	1
	その他の教育活動外収入	63	63	0
	教育活動外収入 合 計	(85)	(84)	(1)
事業活動支出の部 教育活動外支出	科目	予 算	決 算	差 異
	借入金等利息	1	1	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出 合 計	(1)	(1)	(0)
	教育活動外収支差額	(84)	(83)	(1)
	経常収支差額	(0)	(0)	(0)

事業活動収入の部 特別収入	科目	予 算	決 算	差 異
	資産売却差額	2	2	0
	その他の特別収入	1	1	0
	特別収入 合 計	(3)	(3)	(0)
事業活動支出の部 特別支出	科目	予 算	決 算	差 異
	資産処分差額	2	2	0
	その他の特別支出	2	2	0
	特別支出 合 計	(4)	(4)	(0)
	特別収支差額	(△ 1)	(△ 1)	(0)
	基本金組入前当年度収支差額	△ 1	△ 1	0
	基本金組入額合計	△ 7	△ 14	7
	当年度収支差額	△ 8	△ 15	7
	前年度繰越収支差額	△ 4,205	△ 4,205	0
	基本金取崩額	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 4,213	△ 4,220	7

(参考)

事業活動収入計	2,457	2,456	1
事業活動支出計	2,458	2,457	1

貸借対照表 2018年3月31日

学校法人菅原学園

単位:百万円

資産の部			
科目	本年度末(H29年度)	前年度末(H28年度)	増 減
固定資産	(13,686)	(13,782)	(△ 96)
有形固定資産	< 9,386 >	< 9,529 >	< △ 143 >
土地	5,178	5,178	0
建物	3,734	3,888	△ 154
教育研究用機器備品	249	263	△ 14
その他の有形固定資産	225	200	25
その他の固定資産	< 4,300 >	< 4,253 >	< 47 >
収益事業元入金	3,655	3,627	28
その他の固定資産	645	626	19
流動資産	(1,484)	(1,427)	(57)
現金預金	796	816	△ 20
その他の流動資産	688	611	77
資産の部合計	15,170	15,209	△ 39
負債の部			
固定負債	(196)	(255)	(△ 59)
退職給与引当金	99	138	△ 39
その他の固定負債	97	117	△ 20
流動負債	(896)	(874)	(22)
前受金	651	661	△ 10
その他の流動負債	245	213	32
負債の部合計	1,092	1,129	△ 37
純資産の部			
流動負債	(18,298)	(18,284)	(14)
第1号基本金	18,113	18,099	14
第4号基本金	185	185	0
繰越収支差額	(△ 4,220)	(△ 4,204)	(△ 16)
翌年度繰越収支差額	(△ 4,220)	(△ 4,204)	(△ 16)
純資産の部合計	(14,078)	(14,080)	(△ 2)
負債及び純資産の部合計	(15,170)	(15,209)	(△ 39)